

タイトル:平成 26(2014)年度 研究セミナー(第 15 回)

日程:平成 26 年 12 月 19 日(金)~21 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「オランダに居住するクルド系住民第 2 世代の活動

ー オランダ社会への統合と『クルド・ナショナリズム』の展開」

寺本 めぐ美 (津田塾大学大学院)

3 日間に渡る中東☆イスラーム研究セミナーにおいては、博士論文の執筆に向けて大きな収穫を得ることができました。

第一に、研究報告と質疑応答にそれぞれ1時間という時間を与えていただき、博士論文の構成や各章の内容について時間をかけて議論することができました。報告者は、トルコからオランダに移動したクルド系住民の活動を、国際社会学・国際関係学の視点から研究してきました。セミナーでは「受入社会への統合と『クルド・ナショナリズム』の展開——オランダにおけるクルド組織とクルド系住民第2世代の活動」と題した研究報告を行いました。クルディスタン労働者党(PKK)やクルディスタン社会主義者党(PSK)といった政党と結びついて活動するオランダのクルド組織や、こうした組織の活動に参加するクルド系住民第2世代の活動を中心に、博士論文の構成を報告しました。受講生や先生方からは、多くの有益な質問やコメントをいただきました。特に、報告者がオランダをフィールドに現地調査を実施していることもあり、トルコ本国における政治状況やクルド人の置かれる状況の変化が、オランダのクルド系住民に与える影響への目配りが不足しているという課題を自覚しました。

第二に、受講生の報告や小副川先生による「私の博士論文」、先生方の受講生に対するコメントからも多くを学びました。分野や地域の異なる研究報告において、事実関係を細部まで理解することは難しくても、論文の構成のたて方、研究対象へのアプローチの仕方、分析枠組の整理の仕方といった様々な角度から学ぶ機会となりました。同時に、このセミナーは、分野や地域の異なる研究報告に対してどのように切り込んで質問するかという挑戦の場でもあったと思います。

セミナーを通して、受講生や先生方の研究に対する真摯な姿勢からは大きな刺激を受けることとなりました。最後になりましたが、受講生や先生方、事務局の千葉様にお礼申し上げます。このような機会をいただきありがとうございました。